

(別紙4(2))
目標達成計画

事業所名 グループホームゆりはま

作成日: 令和4年1月16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(1)	事業所の理念・基本方針が職員全体で共有できていない。	理念・基本方針、事業計画を職員間で共有し理解する。	年度初めに全職員に説明を行ったが、異動や職員により理解が異なることから、再度、個々の職員へ周知するとともに、セクション会議等で確認する。また、途中で異動のあった職員についてはその都度説明を行う。	通年
2	(3)	運営推進会議の目的や内容等について、職員全体での理解が十分でない。	事業所の運営や地域に関する福祉情勢を職員全体で共有する。	運営推進会議の目的や内容等の理解については、現在、会議に管理者だけが参加しているが、今後、他の職員も1～2名参加出来るよう調整を行う。	通年
3	(6)	利用者や家族からの運営に関する意見等の理解が全体に十分ではない。	家族からの意見等を共有する体制の整備。	運営推進会議にご家族・ご利用者の代表に参加して頂く。会議録を回覧する。満足度アンケートを活用し、サービス向上委員会を中心にまとめ、職員に周知する。	9カ月
4	(10)	職員によっては支援計画の内容を十分理解出来ていない。	一人ひとりの利用者の支援目標について再確認の検討に期待する。	担当職員以外にも日常生活の支援のポイントを明確にし、ケアプランの必要性について理解する。	6カ月
5	(12)	重度化や終末期に向けた方針について職員が理解できていない状況がある。	重度化や終末期に向けた方針について理解する。	年度初めにGHゆりはま全職員対象に説明を行う。途中で異動した職員に対してもその都度説明を行う。	通年
6	(19)	居心地の良い空間づくりに努めているが、中には感心の低い職員もいる。	利用者にとって居心地のよい生活空間とはどのような空間なのか理解する。	環境係・サービス向上委員会を中心に居心地の良い空間について研修を企画・実施する。例「居心地の良い空間とは。実際にどんなものがあるか等」	6カ月